

産衛だより

平成 19 年度第 3 回産業医部会幹事会議事録

日 時：平成 20 年 1 月 18 日（金） 14：00～17：00

場 所：公衆衛生協会ビル 3 階会議室

出席者：岩田全充, 岡田 章, 織田 進, 齊藤政彦, 佐藤広和,
田畑正司, 寺澤哲郎, 昇淳一郎, 広瀬俊雄, 藤代一也,
三好裕司, 山田誠二

計 12 名
(五十音順：敬称略)

議 題：

審議事項

- 平成 19 年度事業報告および平成 20 年度事業計画について
岡田部会長より、平成 19 年度事業報告および平成 20 年度事業計画原案の提示があり、原案通り承認された。
- 産業医部会報について
齊藤担当幹事による資料「産業医部会報に関する審議事項」に基づいて次の (1) から (3) の提案があり審議され各々了承された。
 - 医部会報担当者を齊藤, 昇, 福本の幹事 3 名と事務局としての植村氏を加え 4 名として役割分担すること
 - 医部会主催事業の記事担当者としてプロフェッショナルコース：藤代幹事, 合同セミナー：宇土幹事, 産業医フォーラム：三好幹事, リレーワークショップ：田畑幹事とし、各担当幹事が参加体験記事の執筆を適宜依頼すること
 - ホームページへの記事の選定については福本幹事が担当すること
 部会報編集の基本方針については次の (1) ～ (4) が提案され、了承された。
 - 全ての記事に写真（執筆者の顔写真、ただし開催報告は会場風景等）を付すこと
 - 部会員の産業医活動報告を北から二地方会ずつ順次掲載し、担当幹事から部会員へ投稿依頼すること
 - 各地方会における産業医部会幹事 ((2) の担当幹事) は、その抱負を南から二地方会ずつ順次掲載すること
 - 編集後記はスペースが余った場合に 3 名の担当幹事が順番に執筆すること
 なお、各地方会の部会報担当幹事は以下の通りとした。
北海道：佐藤幹事、東北：中屋幹事、関東：福本幹事、北陸甲信越：田畑幹事、東海：齊藤幹事、近畿：山田幹事、中国：宇土幹事、四国：昇幹事、九州：藤代幹事。
また、定例記事と各号への振り分け記事の整理を行い、平成 20 年発行分の 3 月号, 7 月号, 11 月号における定例掲載記事が決定され、執筆要綱も決定した。
- 産業医部会事務局について
岡田部会長より、4 部会共通の業務（名簿管理および部会通信費納付受付等）を学会本部の経費にて実行することが学会（総務担当）で引き続き検討されている中で、当部

会事務局機能も暫定的に引き受け可能な機関を東京都周辺で選定する可能性があることについて説明があった。

また、当部会の独自事業（部会報作成、産業医プロフェッショナルコース運営等）については、学会本部は経費面で関与しないこと等についても改めて説明があった。なお、暫定事務局を東京に設置し、実務に関して総務昇幹事を抜くという案では、植村事務局員（北九州）、岡田部会長（大阪）間との調整を日常的に行わなければならないので、はっきりするまでは、現行の当部会事務局体制（昇総務—植村事務局員）を核とすることが必要でないのか、という意見が出され昇総務も現在の実務方式の継続が妥当だし可能である旨の意見が出され、その方向で確認された。

4. 第 81 回学術集会（北海道）について

佐藤幹事より、演題登録の受付が締め切られ、一般演題およびポスターを合わせて計 613 題の登録があり、盛況の見込みであること、当部会行事として、平成 20 年 6 月 27 日（金）13 時～16 時に産業医フォーラムおよび部会総会が行われる計画であることが報告された。

5. 産業医部会幹事定員数の増加について

当部会活動の更なる活性化に向け、他部会に比較して少ない当部会の定員数を会員数の地域バランス（北海道 30 名、東北 49 名、関東 179 名、北陸甲信越 26 名、東海 74 名、近畿 84 名、中国 32 名、四国 19 名、九州 79 名）を考慮して、5 名増員（うち関東 2 名増、東海・近畿・九州各 1 名増）とするよう提案があり、了承された。次回の理事会（3 月 15 日）へ諮り承認の上、当該地方会長へ選任要請を行い、6 月 27 日の部会総会にて決定する方針とした。

なお、新幹事の任期は、現幹事の任期に連動するものとした。

6. 次回幹事会日程について

平成 20 年 6 月 24 日（火）13 時～15 時役員会、17 時～19 時幹事会を各々開催することとした。

報告事項

1. 第 17 回産業医・産業看護全国協議会（東京）について

三好幹事（企画運営委員長）より、参加者総数は、計 1,222 名（全国協議会 850 名、合同セミナー 33 名、産業医特別研修会 201 名、産業看護特別研修会 138 名）であり、会計報告を含め、開催報告を産業衛生学会雑誌 3 月号に掲載予定であることが報告された。また、広瀬幹事（ポスター賞委員長）より、ポスター賞選考における課題として審査対象基準を満たさないケースの見極め方が困難であり、疑いのある演題は、対象から除外したことが報告された。

2. 第 18 回産業医・産業看護全国協議会（愛媛）について

昇幹事（企画運営委員長）より、同協議会のプログラム編成基本方針および会場設営計画案について説明があった。関連企画である四部会合同セミナーの日程については、例年通り、全国協議会の開催前日からの開始を含めて検討を行うよう要請がなされた。

3. 産業医プロフェッショナルコースの運営について

藤代担当幹事より、同コースが平成 20 年 1 月 19 日（土）

～20日(日)の二日間、横浜市のオンワード研究所にて開催予定で、24名の事前申し込みがあることが報告された。

4. 産業医フォーラムのテーマについて

三好担当幹事より、次回フォーラムの概要について説明があった。

第3回石綿問題検討委員会議事録

日 時：2007年2月16日(金) 18時～21時

場 所：八重洲倶楽部第11会議室

出席者 (アイウエオ順, 以下敬称略)：相澤好治, 岸本卓巳, 日下幸則, 甲田茂樹, 東 敏昭, 久永直見, 広瀬俊雄, 矢野栄二, 脇本秀紀 (事務局)

欠席者 (同)：大前和幸, 岸 玲子, 車谷典男, 神山宣彦, 森永謙二

議 事

1. 委員会の課題の具体化

1) 「学会活動 (1) 石綿関連疾患研修用教材作成委員会」⇒
①日下報告に日下, 東, 岸本, 久永各委員から画像教材が集約中。「講座」で供覧予定。まずは, その到達点を踏まえる。「職呼研」の症例収集も役立てる。「個人情報保護法」, 「著作権」の範囲で。

②どちらにしても既にあるものの紹介を合わせて。

2) 「学会活動 (2) 研修会」⇒「石綿関連疾患実践講座—職歴評価から労災補償まで—」を第80回総会時に学会主催, 委員会担当として以下の3つのテーマで開催することとしている。

①曝露に関する問診法・評価の仕方 (久永)

⇒厚生労働省「手引き」に掲載された多数の石綿関連作業の写真は有用。今回実施の講座では, 現場調査時の写真と曝露濃度や測定情報(参考値)を合わせて示す。

②画像診断について (日下)

③石綿関連疾患の労災補償の取り扱い方 (岸本)

当日の講座を「撮影する」準備をする。13時から「会場」で打ち合わせを行う。

3) 「学会活動 (3) 石綿関連疾患症例の情報収集」⇒職業性呼吸器疾患研究会に検討を委託することとしている (担当：相澤世話人代表他 日下, 東, 久永, 広瀬世話人)。4月の総会時自由集会では, 日本職業・災害医学会 (神戸労災病院大西副院長), 日本呼吸器学会 (兵庫医大中野教授) からも参加する。「委員会」報告は「議事録」「事業報告」を基本に事務局長が行う。

⇒次回委員会で「登録制度」について森永委員に報告してもらう。

それとは別に委員会としても関連学会に「協力・共同」を呼びかけていく。

⇒学術会議担当の岸委員に情報収集, 検討してもらうこととした。

4) 「学会活動 (5) 国際労働衛生への貢献」

「Air Pneumo」

日下委員より報告。タイで総選挙やクーデター後の状況が影響するが, 2日間で研修会予定。「読影」は二次予防, 一次予防としての「職場改善」。タイの医師はほとんど16時以降は「サイドジョブ」に従事。「終了=合格」しないと「困る」。基本は「塵肺」「プラーク」読影。specificityを見れるか。「(先の) 症例収集」は外国で使える。

5) 「リスクアセスメント&リスクマネージメント」

矢野委員より報告。「学会や専門家は何をしていたのか?」の批判への回答が必要であり, アンケートも参照しながら委員会として議論した。今後「石綿問題から学ぶことを」中心に, 委員で「座談会」を行い具体的な提案を示すこととした (担当：矢野・神山)。

◎座談会⇒次回委員会で(全員)行う。必須委員=矢野, 神山, 森永, 相澤, 他全員にて⇒事務局で日程調整する。

6) 「学会としてのもっと疫学調査の提案を」で一致。「108条」がクボタの事例では是非「発動」されるべきであり, 第三者機関として日本産業衛生学会が受けるという「提案」を理事会に起案することとした (担当：車谷・甲田)。

2. 次回委員会は, 2007年5月後半から6月, 土曜午後を第一候補, 同午前, 日曜日, 平日夜の順で事務局が調整する。→調整の結果, 2007年6月3日(日)9時～12時開催とする (会場：未定)。

第4回石綿問題検討委員会議事録

日 時：2007年6月3日(日)9時～12時

場 所：東京国際フォーラム G609 会議室

出席者 (アイウエオ順, 以下敬称略)：相澤好治, 日下幸則, 車谷典男, 甲田茂樹, 久永直見, 広瀬俊雄, 森永謙二, 矢野栄二, 脇本秀紀 (事務局)

欠席者 (同)：大前和幸, 岸 玲子, 岸本卓巳, 神山宣彦, 東敏昭

議 事

1. 要望書について

前日の理事会の議論を踏まえて, 標題を「石綿取扱い労働者の疫学調査実施に関する要望」とし, 「クボタ旧神崎工場は明記」しつつ「その実態を明らかにするために」を追加することによって関連する他工場での調査も可能することにした。理事会, 委員会に配信にて至急異論, 修正意見を集約し, 事務局で整理して相澤委員長へ届け, 委員長から理事長に提出願う。提出先は厚生労働省とし, 併せてクボタ本社 (大阪) と学会員である関係する産業医 (統括) には同日郵送でお送りする。

2. 教材について

画像の教材を作成する, ということで広瀬 (責任者), 東, 久永, 日下, 岸本委員が担当し, 第80回総会時実践講座をみて内容検討するとしてきた。「実践講座」は130人程参加し, 成功した。そこでの講義を活かせば「画像教材」に十分持っていけると判断したが, 日本呼吸器学会も今年5月

に緊急シンポを開催し、継続的にこの課題に取り組むことになってきているので、その動きを踏まえ、当学会の方は、「画像の教材」よりも「曝露歴の評価」が期待されるといえるので再度内容を再検討することとした。産衛、呼吸器、災害、放射線、が集まって検討をしてみたら判断することとした。他学会担当は、呼吸器（広瀬）、災害（岸本）、放射線（相澤）とし、次回委員会前を目標に「懇談会」を追求することとした。

同学会からは非公式に来年「合同シンポ」を提案されているので話ができれば受けることとした。

3. 第80回総会時職呼研について

日本呼吸器学会から兵庫医大中野教授、日本職業・災害医学会から神戸労災病院大西副院長が立派な資料で講演され参加者も多かった。「症例集」については、既にいくつかなされているので、課題から外し、委員会として「石綿関連企業・事業所の産業医が取り組む際に役立つマニュアル」「Q & A 集」を作成することとした。
4. 「登録制度」について

森永委員よりこれまでの経過と現状について報告を受けて若干質疑・討論した。症例収集同様委員会としての独自の活動はしないことにした。
5. 国際労働衛生への貢献

日下委員より報告を受け若干質疑・討論をした。
6. 座談会について

相澤委員長より「座談会は今日ではなく別途に準備して行いたい」との提起があり、「石綿問題から学ぶこと」ということで、「学会の果たしてきた役割」「専門家の役割」などについて担当の矢野副委員長の提起に続き活発な討議を行った。「座談会」は、報告書に書き切れないが重要な事柄を委員全員で検討し「座談会」として「別途公表」もありうるということで設定することとした。「座談会」の問題提起・準備を「相澤、矢野、神山、森永、東委員」とした。
7. 第2回「実践講座」

来年も行うこととし、岸委員（企画運営委員長）に提起することとした。内容は次回検討し、講師メンバーは第1回と変えることとした。
8. 他
 - 1) 事務局員交代

これまで事務局員を務めていた脇本秀紀氏が、財団法人宮城厚生協会内の人事移動で出向となったので（2007.6.1付け）、代わりに仙台錦町診療所・産業医学センター金田基新事務長に代わることが広瀬事務局長から報告された。
 - 2) 財政：
 - ① 2007年度は30万 + 50万 = 80万。
 - ② 旅費、宿泊規定は昨年度通り。
 - 3) 第80回総会時報道（プレス）レクチャー（4月24日大阪）の内容が矢野副委員長からあった。
 - 4) 次回（第5回）委員会日程

*第1案 9月8日（土）夜＜座談会＞、9日（日）午前委員会

*第2案 9月15日（土）夜＜座談会＞、16日（日）午前委員会

以上につき、欠席者の都合を事務局で集約し、参加者の多い日に東京で開催する。

第5回石綿問題検討委員会議事録

日 時：2007年9月9日（日）9時～12時

場 所：東京八重洲ホール412会議室

出席者（アイウエオ順、以下敬称略）：相澤好治、岸本卓巳、日下幸則、甲田茂樹、久永直見、広瀬俊雄、矢野栄二、金田 基（事務局）

欠席者（同）：大前和幸、岸 玲子、車谷典男、神山宣彦、東敏昭、森永謙二

議 事

委員会開会に先立ち、今次第5回委員会ならびに前日の座談会の会場確保に際して、財団法人労働衛生会館のご協力をいただいた事が事務局より報告された。

1. 要望書について

前日の理事会の議論を踏まえて、標題を「石綿取扱い労働者の疫学調査実施に関する要望」とし、「クボタ旧神崎工場は明記」しつつ「その実態を明らかにするために」を追加することによって関連する他工場での調査も可能することにした。理事会、委員会に配信にて至急異論、修正意見を集約し、事務局で整理して相澤委員長へ届け、委員長から理事長に提出した。7月6日に総務担当理事が厚生労働省に提出した。併せてクボタ本社（大阪）と学会員である関係する産業医（統括）には同日郵送でお送りした。

2. 教材について

「画像の教材を作成するかどうか」、「相互の協力作業があるか」、ということで、日本産業衛生学会石綿問題検討委員会が呼びかけ、9月8日3時から5時に、日本呼吸器学会、日本職業・災害医学会、日本放射線学会の代表が集まって検討した。

① 共同教材は作成を目指すこととし

- (i) 日本職業災害医学会は、職歴と病理の明らかな症例の診断、画像、治療等をまとめる。
- (ii) 日本放射線医学会は、主に「肋膜肥厚」についてまとめる。環境省関連の症例も提供頂く。
- (iii) 日本呼吸器学会は、「間質性肺炎」と石綿肺との関連性についてまとめる。
- (iv) 石綿肺疾患の間診、意外な現場で発生した症例についてまとめる。

② 上記の「まとめ」は08年6月の第81回日本産業衛生学会総会（札幌）での「職業性呼吸器疾患研究会」にて報告しあう。その内容を検討して「教材製作」が可能であれば共同作成に進む。

③ 学会相互の共同作業では、当面

- (i) 日本呼吸器学会が来年「環境と呼吸器疾患」とい

うシンポジウムを設けるがそこに日本産業衛生学会から参画する。

(ii) 来年秋の日本職業災害医学会(東京)で日本産業衛生学会との「合同シンポ」を追及する。

以上を踏まえて、委員会としては「教材担当として広瀬(責任者)、久永(問診表)、日下(画像)、岸本、東(石綿協会標準フィルム)が引き続きあたる。

3. 共同の取り組み

前述の如く、日本呼吸器学会では「環境と呼吸器疾患」というシンポが決まり、企画検討者である近畿大学堺病院呼吸器科長坂教授の要望で日下委員が協力することとなった。他学会との懇談会の委員会窓口は広瀬、岸本委員があたる。

4. 第81回総会時「職呼研」について。

前述の「懇談会」の確認に沿って関連4学会の共同の企画を行う。

5. 「登録制度」について

委員会前日に設けた「座談会」の討議から

①石綿関連労災資料や石綿健診成績は集約できないか、を検討する。過去に京都での国際職業性肺疾患シンポジウム時に相澤委員長が全労働局において集計した経由がある。それを「手本」にできたら良い。

②同様に、「座談会」の討議にて「解体労働者」の登録・追跡調査の実現を検討する。例えば「土建組合」等に協力を要請する。委員会は「非常設委員会」なので、「職呼研」が担ってできないかを世話人会で検討してもらう。

6. Q&A

久永試案を基に検討した。4学会共同教材作りに歩調を合わせる為に6月を目標とする。

追加の「Q」を事務局が集約する。来年の「実践講座(第2回)」の内容と重ねて準備する。

「測定」に関しては神山委員、「疫学」に関しては森永委員、「リスク評価・管理」に関しては矢野委員が協力する。担当は久永(責任者)に広瀬(事務局)が協力する。

7. 国際労働衛生への貢献

日下委員より第4回 Air Neumo 報告を受け若干質疑・討論をした。

8. 座談会について

委員会前日に委員全員参加方式で「石綿問題から学ぶこと」ということで、「学会の果たしてきた役割」「専門家の役割」などについて担当の矢野副委員長、神山委員の提起に続き活発な討議を行った。「座談会」は、内容の重要箇所は報告書にも活かすこととした。

9. 第2回「実践講座」

岸委員(企画運営委員長)のご配慮で来年も行うこととした。

①「測定」に関しては神山委員

②「疫学」に関しては森永委員

③「リスク評価・管理」矢野委員

「実践講座」にふさわしい「演題」に工夫し、会員の活動に役立つようにすることとした。各演者と事務局が相談する。

ちなみに、森永委員の演題は「疫学調査—今わが国が学ばべきこと」となった。

10. 次回(第6回)委員会

12月8日午後4時から8時、於)東京国際フォーラム G401号会議室

議題(予定・予想)

①報告書 委員長(案)の説明と討議

②各課題の進捗状況

③次回委員会予定

④次年度委員会はあるか(必要な事態で最大1年延ばせる)?

終了した場合は、どう活動を「見届けるか」

例)「実践講座」「教材作り」「関連学会との協力の課題」等

第6回石綿問題検討委員会議事録

日 時: 2007年12月9日(日)16時~18時30分

場 所: 東京国際フォーラム G401 会議室

出席者(アイウエオ順、以下敬称略): 相澤好治、岸本卓巳、日下幸則、東 敏昭、久永直見、広瀬俊雄、矢野栄二、金田 基(事務局)

欠席者(同): 大前和幸、岸 玲子、車谷典男、神山宣彦、東敏昭、森永謙二

議 事

委員会開会に先立ち、日下委員が雪による列車ダイヤの遅延、広瀬委員が日本産業ストレス学会参加の為、それぞれ開会に遅れての参加となることが事務局より報告された。

1. 9月8日の座談会の「まとめ」について

事務局で「発言録」の形でまとめられているが、当初の予定通り、「報告書」として「公表」することはしない事を確認した。ただし、このような「座談会」が「プレーストリーミング」として行われたと言う事については記録に残したいとの意見もあり、矢野委員にこの後に予定している「学会発表」の中に生かしていただく事とした。

2. 委員会「報告書(案)」について

相澤委員長より提案された「別紙」の項立てに基づいて協議を行った。「他学会との共同活動」「教育用資料」「Q & A」「国際活動」の各項目に関連して、各委員への協力が要請された。

3. 第81回総会時の活動について

①第2回実践講座

08年6月25日(水)14:00-16:00 B会場にて開催予定。

分担: 「測定」—神山委員、「疫学」—森永委員、「リスク評価・管理」—矢野委員。

②職業性呼吸器疾患研究会

9月8日の「懇談会」時の確認に沿って関連4学会の共同の企画を行う。

08年6月25日(水)16:30-18:30 B会場にて開催予定。

日本呼吸器学会からは石綿肺と間質性肺炎について
日本放射線学会からは肋膜肥厚所見と肺がんの画像
日本災害医学会からは病理も含めての「確診例集積」の結果

日本産業衛生学会からは問診表とQ&A
について報告する。

4月頃に、四学会懇談会と研究会世話人会を連続して開催することを追求する。

4. 「四学会合同作業」について

各学会のテーマを継続的に合同で取り組む。6月の総会時の報告後に「合同教材」「研修会」の展望について確認して実践する。

5. 「登録制度」について

岸本委員より情報として、この間全国の肺がん学会評議員、がん拠点病院、各労災病院呼吸器科等呼びかけ対象とした「調査」について、「自由記載部分が多くて大変!」「何らかのインセンティブがないと厳しい」、との声が出されていることが紹介された。

6. 次年度の委員会のありかたについて

非常設委員会の設置期間は原則2年間である。「報告書」については年度内提出を目標としつつ、もう1年(規定に基づき)延長を理事会に申し出て、実践的課題を中心に運営する。「職研研」との連携・協力を強める。

7. 次回(第7回)委員会

総会に向けた理事会(3/15)に間に合う日程で開催する。

平成20年度第1回産業衛生技術部会 企画委員会議事要旨

日時:平成20年3月15日(土)13:30~15:30

場所:早稲田大学創造理工学部環境資源工学科会議室(大久保キャンパス51号館12階)

出席:名古屋俊士(早稲田大)、加藤隆康(グッドライフデザイン)、中明賢二(麻布大)、今井常彦(東邦大)、落合孝則(東工大)、野原誠一郎(化繊協会)、村田克(労研)

1. 次回部会総会(幹事会)資料案について

- ・産業衛生技術奨励賞中明賞表彰者の選考について
- ・地方会活動費

20年度から各地方会の活動状況に応じ支払い額を増減する。

- ・6月札幌の学会時の部会行事について

幹事会は6月26日(木)11:30-12:00、フォーラムは27日(金)13:30-16:30(15:30以降は部会総会)。

- ・部会大会

当初予定の12月13日(土)には会場が使用できないため前後の平日に開催。

- ・専門研修会

第7回を12月の部会大会開催日の午前中に開催する。

- ・4部会コラボレーティング委員会

今年の合同セミナーは第18回産業医・産業看護全国協議会(松山総合コミュニティセンター)で11/27に1日のみ、リレーワークショップは11/29・13~15時半に開催する。

- 2. 各報告等

- ・次回企画委員会は6月14日(土)13:30~15:30に開催

平成20年度新入会者

[北海道] 今野由将, 佐藤浩樹, 妹尾秀雄, 濱田啓子, 真名瀬賢吾, 山口智子 [岩手] 千葉美津子 [宮城] 江戸妙子, 小野裕美, 浅敷龍子 [山形] 渡辺里香 [福島] 石岡郁子, 遠藤真理, 小野 晃, 熊坂智美, 後藤弓子, 佐藤和子, 佐藤啓恵, 中島茂基, 渡部敏恵 [茨城] 岩鼻訓仁子, 杉浦真由美, 鈴木裕子, 内藤隆志 [栃木] 宮田幸雄 [埼玉] 永木由佳, 岡野治恵, 鈴木洋通, 田嶋弘章, 森 康貴 [千葉] 秋田直洋, 飯島玉枝, 許斐亜紀, 横井克彦 [東京] 浅田健一, 中 秀代, 荒井博行, 荒井裕介, 稲垣卓也, 鶴澤真由美, 太田貴徳, 岡藤奈緒子, 落合秀宣, 小沼絵理, 金子 賢, 川崎和子, 日下輝雄, 黒島末季, 郷 素子, 光山元章, 小弾正公彰, 薦田 努, 斉藤美幸, 斉藤有紀子, 櫻田秀樹, 佐藤由喜子, 軸蘭智雄, 鈴木純子, 瀬戸良子, 染村由季子, 高瀬晃一, 高山真一郎, 田中和行, 田中健司, 千葉佳子, 塚尾晶子, 月岡三知江, 鶴ヶ野しのぶ, 中根麻衣子, 西島浩, 根岸勢津子, 橋本智代, 福岡智子, 福谷淳子, 藤井広美, 星野寛子, 星野有美, 松嶋昭夫, 松田愛子, 村上絵美, 村上由希子, 森迫和歌, 山尾玲子, 山越真理子, 山崎美智代, 山田世津子, 渡邊和美 [神奈川] 安彦泰進, 伊藤弘明, 稲垣順子, 井上仁美, 大小田学, 加藤千帆, 加藤康行, 北橋由美子, 児島五郎, 小林としえ, 小松崎克己, 斉藤とも子, 清水嘉代, 鈴木亮, 関佳那子, 竹村和夫, 野崎卓朗, 福井美貴, 紅谷悠貴, 牧祥, 森口修三 [新潟] 磯部里美 [石川] 藤村裕子 [山梨] 鶴田房江 [長野] 木村周子 [岐阜] 兵藤博行 [静岡] 伊藤 孝, 岡部浩典, 小澤久代, 影嶋貴美, 菊池真代, 神津民子, 白川健太郎, 菅沼要一郎, 濱田理一郎, 平田哲夫, 山崎安曇, 渡邊千栄美 [愛知] 春日洋一郎, 加藤慶子, 鎌倉明美, 竹市 泉, 土屋しげみ, 都築尚生, 中村直子, 馬場多喜子, 間瀬純治, 向井千草, 森 章悟, 山内規代美, 若尾京子 [三重] 堀尾清晴 [滋賀] 中田裕美 [京都] 衣笠加江子, 西尾 健 [大阪] 大倉早智, 緒方 満, 奥 俊彦, 小倉真美, 瓦家千代子, 橘高又八郎, 小谷宏行, 阪本貴司, 笹尾 愛, 白水優子, 竹内廣巳, 津田康博, 中嶋章子, 吹本小百合, 松下尚生, 森本貴代, 和久純也 [兵庫] 九谷直典, 九谷 亘, 雑賀佳世子, 藤村一美, 堀内朋子, 宮崎武子, 山下元秀, 吉田 裕 [和歌山] 森浦千鶴 [鳥根] 勝田祐子 [岡山] 岩戸央子, 五嶋幹雄, 洲上恵子 [広島] 片山美恵子, 蜷川内文, 高木永子, 山本真一 [山口] 戸ヶ里泰典 [徳島] 久保幸子 [福岡] 井上義崇, 岩本謙荘, 柿原かおる, 神原辰徳, 近藤 祥, 斉藤聡子, 坂本博章, 渋谷克彦, 末吉亜紀子, 高本哲郎, 武田良子, 鳥谷 潤, 中尾友美, 日吉悦子, 船越弥生, 渡邊理絵 [長崎] 橋場昌義 [熊本] 濱田佳代子 [宮崎] 高橋直樹, 柳田美智子 [鹿児島] 奥山早苗